

ちから スポーツの力 ～する・みる・ささえる～

B&G 事業

◆ B&G 財団とは

(公財) ブルーシー・アンド・グリーンランド (B&G) 財団は、海洋性レクリエーションをはじめとする自然体験活動などを通じて、次代を担う青少年の健全育成と幼児から高齢者までの心とからだの健康づくりを推進することを目的に設立された公益財団法人です。

事業では、水泳競技大会・剣道大会など小・中学生が練習の成果を発表するとともに、相互に交流を図る大会の開催や、「砂 ASOBeach」という海辺遊びやマリンスポーツ体験、クリーン活動など誰でも参加できるイベントが行われています。



◆伊賀市の海洋センター

市には、阿山 B&G 海洋センターと大山田 B&G 海洋センターの2つの施設があります。施設内には体育館、トレーニングルーム、プール、艇庫があり、いろいろなスポーツが行うことができる施設となっていますので、ぜひご利用ください。

施設の利用方法など、詳しくは市ホームページをご覧ください。

【問い合わせ】 スポーツ振興課

☎ 22-9635 FAX 22-9694

✉ sports@city.iga.lg.jp



市ホームページ

「砂 ASOBeach」紹介動画▶



明日に向かって ～差別をなくしていくために～

ヘイトクライムを知っていますか？

ー建築課ー

ヘイトクライムとは、人種、民族、宗教など、ある特定の属性を持つ個人や集団への偏見が引き起こす、脅迫や暴行などの犯罪行為のことです。

平成 28 年に通称「ヘイトスピーチ解消法」が施行されましたが、いまだに特定の民族や国籍の人々を排除しようとする差別的言動が続いています。近年、新型コロナウイルスの感染拡大で、米国においてアジア人に対するヘイトクライムの被害が増えています。米連邦捜査局 (FBI) の統計では、令和 2 年に報告されたヘイトクライム事件の件数は 7,700 件を超え、令和元年より 450 件増加し、7,783 件の報告があった平成 20 年以来、最も多かったとのことです。また、昨年 6 月末までの半年間で 4,500 件以上となり、増加の一途をたどっています。中国で初めに感染が確認されたからという理由だけで、アジア人が差別的扱いを受け、暴行を受けたり、命に関わる重犯罪行為を受けるなどあらゆる事件が頻

発しています。

新型コロナウイルスの感染症拡大を原因とするヘイトクライムは、人々の誤った知識や偏見が積み重なり起きています。アジア人だからという理由だけでコロナウイルスと結び付け、差別的扱いをすることは許されることではありません。

私たちの身近にも、県外ナンバーのドライバーに対して、圧力をかけるような運転をしたり、感染した人やその家族、濃厚接触者をインターネットで探そうとしたりするような人権侵害につながる動きが起きています。

無知や無自覚であることが差別を生み、ヘイトクライムのような犯罪を引き起こし、多くの人を傷つけてしまうことにつながるのではないのでしょうか。

今一度、一人ひとりが差別解消に向けて正しい知識を身に付け、行動することが大切だと思います。

人権について考えるコラムです。

■ご意見などは人権政策課 ☎ 22-9683 FAX 22-9641 ✉ jinken-danjo@city.iga.lg.jp へ

伊賀の歴史余話 23 鉱石のある暮らし

かつて火山活動が活発で、古琵琶湖があった伊賀盆地の地層には、さまざまな鉱石が眠っています。昔の人びとは、これらの鉱物資源を上手く生活に役立てていました。

伊賀を代表する鉱物資源に「うに」と呼ばれる亜炭(泥炭)があります。主に燃料として利用された亜炭は、柔らかく浅い地層に埋蔵されていることから、比較的容易に掘り出すことができました。そのため明治期から第二次世界大戦後にかけては全国各地で採掘が行われました。

伊賀地域での亜炭採掘の歴史は全国的にも古く、江戸時代の地誌『三國地志』には、伊賀郡の特産としてすでに紹介されています。また、芭蕉の貞享 5 (1688) 年の句にも「香に匂へうに掘る岡の梅の花」と「うに」を題材にしたものが残されています。亜炭は燃やすと強い匂いを発することから、その匂いを和らげる香りを梅に求めた一句です。



▲うにの匂が刻まれた句碑(蔵縄手:市場寺)

木炭が燃料の中心であった江戸時代から伊賀では亜炭が採掘され、生活の身近にあったことがうかがわれます。そして、採掘が本格化した昭和初期、伊賀地域の亜炭は県内の鉱産物の産額の約半分を占めるまでになっています。

伊賀で産出された鉱物資源は亜炭だけではありません。なかでも特に重宝されたものに薬石があります。例えば、雲母はぜんそくの改善、太乙禹は下痢止め、顔料としても利用された鳴石(代赭石)は、補血や止血に使われました。

採掘できる鉱石の種類を正確に見分け、燃料や薬など日常生活に欠かせないものとして活用する当時の人びとの知識や技術には驚かされるものがあります。

文化財課歴史資料係
☎/FAX 41・2271

薬として使用した鉱石(主産地)

雲母(阿波村)	燃石(新居村)
黒石(阿波村)	水晶(友生村)
紅石(山田村)	砒石(神戸村)
松石(玉瀧村)	鳴石(古山村)
太乙禹(丸柱村)	五色石脂(種生村)

(『新編伊賀地誌』より)

IGAMONO
伊賀モノ

IGAMONO セレクション

No. 26

【問い合わせ】 商工労働課 ☎ 22-9669 FAX 22-9695

愛農学園農業高等学校では、農薬や化学肥料を使わずにキウイを育てています。授粉から収穫、加工まで、すべて手作業で行って育てたキウイを使ったジャムは果樹部自慢の1品です。ゲル化剤や増粘多糖類などの添加物は一切使用していません。パンだけではなく、ヨーグルトにも合うと好評です。使用品種は、ハイワード、ゴールデンアップル、ブルーノなどです。※時期によって配合が異なります。



愛農高校オーガニックキウイジャム



学校法人愛農学園農業高等学校

愛農高校の農場は、耕種(作物、野菜、果樹)、畜産(養鶏、養豚、酪農)の6部門に分かれています。田や畑、果樹園などがあり、総面積は約3ヘクタールです。家畜の数は、産卵鶏約2000羽、母豚約10頭、種雄豚1頭による年間肥育豚は150頭ほど、乳牛は約20頭を飼育しています。耕種部門では、農場に生きる多様な生態系を壊すことなく、持続可能な農業を

めざし、化学肥料や農薬を使用しない有機農業の実践を大切にしています。畜産部門でも、遺伝子組み換え作物や抗生物質などに頼らず、家畜のストレスを減らす飼育方法を模索、実践しています。

農場に生きる家畜や野菜、米、果樹はもちろん、虫や微生物までも含めた「いのちを大切にす農業」の実践の場です。

